努力の大切さ

梅林中　一年　ＹＮ

「ゴー」という音とともに空へ飛び立ち、旅行、荷物の運搬などに利用される飛行機。人間の生活とはもはや切っても切れないこの機械を造った、二人の兄弟のことをご存知だろうか。ウィルバー・ライトと、その弟のオービルである。

彼らが飛行機に興味をもち始めたのは、子どものころ。父がお土産でくれたおもちゃの飛行機で遊んだのがきっかけだった。しかし、その頃は、ただの遊びで「人が乗る」なんて、思いもしなかったようだ。大人になったウィルバーとオービルは、キャサリンという妹とともに、自転車店を営んでいた。そんなある日、二人の幼いころの夢を思い出させる出来事が起きた。すでに飛行機造りを手がけていた、オットー・リリエンタールの墜落事故だ。リリエンタールは、ハンググライダーで飛行中、不運にもハンググライダーが墜落し、死亡した。この事故をきっかけに、二人は店を休み、飛行機造りに専念することにした。

飛行機が飛ぶためには、重要な要素が三つある。一つ目は、機体を空中に持ち上げる主翼。二つ目は、空中を進む推進力を生む動力。三つ目は、機体の操縦法だ。初めの二つは、ある程度まで解決されていた。そのため、ライト兄弟は、機体が空中で安定した状態で操縦するために、試行錯誤を繰り返した。そして、昇降舵（主翼の後ろに付け、操縦で角度を変化させるもの）を取り付けた。これを上下に動かせば、空中で機体を安定させることができた。

だが、問題は完全に解決したわけではない。主翼が左右に傾くことによって生じる横揺れを止める方法が未解決なままだった。そんなある日、鷹の飛び方にヒントを得ることができた。そして、左右の翼を交互に傾ける「ねじれ」を導入した実験機を製作した。後はひたすら実験を繰り返した。この実験で、ウィルバーはひどいけがを負った。どれだけ努力しても、失敗に終わるライト兄弟。ぼくなら「くそう、もういやだ。」と、飛行機造りをやめるところなのだが、二人は一から考え直し、また、飛行機を作り出したのだ。

危険な思いをしてもなお、二人が飛行機造りを続けられたのはなぜだろうか。それは、二人の心の中に「なんとしても、完成させたい。」という強い執念があったからだろう。そして、ついに人類初の飛行機を完成させたのだった。

ぼくの家には、「世界はつめい物語３　ひこうきのはつめい」という絵本がある。自分が幼いころによく読んでもらったこともあって、この本を選んだ。だが、この本には、幼児向けの絵本からだけでは読み取ることができない、ライト兄弟の実験、苦労、がんばりなどの二人の壮大な人生が書いてあり、改めて、彼らのすごさ、ありがたさを感じた。

ぼくはこの本を読み終え、ある言葉が頭に残った。それは、「努力」である。まだ、飛行機と呼ばれるものがなかったこの時代には、飛行機造りにおいて、重大な問題がいくつもあった。しかし、問題を解決するために、ひたすら考え、何度失敗しても決してあきらめない、ライト兄弟の想像を絶するほどの「努力」に、とても感動した。

ぼくは今までを振り返ってみると、ライト兄弟のように、たくさんの努力をしたことがないし、ちょっとした失敗であきらめたことも多い。ある一つのことに長い間夢中になったこともない、飽きっぽい性格だった。しかし、この本を読んで、これからはライト兄弟のように、何事にもこつこつと取り組み、最後までやりとげる人間になろうと思った。今の自分の生活では、部活動でどんなにきつい練習でも、「めんどくせえ。」と適当に行うのではなく、「よし。やってやろう。」と、やる気をもって本気で取り組みたい。勉強でも、ワークを何回もやったり、ドリルを買って自主学習をしたりして、苦手な科目を克服したい。

歴史を振り返ると、ミサイルや銃を積んだ、戦争に使うための武器として飛行機が使用され、今でも存在する。ライト兄弟は飛行機をこのような目的で使うことを望んでいただろうか。そんな飛行機は全く不必要だとぼくは思うし、ライト兄弟もそう思っているだろう。ライト兄弟だけでなく、飛行機造りに挑んだ全ての人々の苦労、がんばりを踏みにじることになると思う。その人たちの「努力」を無駄にしない、平和な世界にするために、ぼくたちにもできそうなことを考え、小さな「努力」を積み重ねていきたい。